URUKU LOCAL PRESS

うるくローカルプレス

うるくのローカルな情報をお届け！

2025年10月
vol.21

無料 TAKE FREE

揚げたてアツアツ！
TAKE OUT

うるくのコネタ
ローカルなコネタ、歴史ネタなどをご紹介

THEATER

シリーズ『うるくにあった映画館』 その4

鏡原町に映画館があったってよ～！（小禄琉映館）

戦後のまだまだ娯楽の少ない時代にうるくにあった映画館（5つ）をシリーズでご紹介しています。

かつて、現在の県道7号線「小禄入口」バス停のそばに『小禄琉映館』という映画館がありました。戦後復興の1950年代に開館し、小禄にあった映画館の中で最後に閉館した映画館です（1983年閉館）。小禄で育ち、幼い頃に見ていた戦後の小禄の景色や情景を描き続けている儀武息慶さんの作品の中には『小禄琉映館』を描いたものがあり、映画館周辺の当時の様子を伺いました。

かつての小禄琉映館
作：儀武息慶さん

絵の作者：儀武息慶さん（77歳）
（栄町市場にて「栄町ミート」を経営）

【小禄琉映館の絵を描いた儀武さんの記憶】

「小学3年生の頃、小禄琉映館の左隣の瓦家の隣に薬屋があって、母親と歩きながら向かっていると、どこからか親子ラジオから民謡が聞こえてきて母親が立ち止まって聞いていたのを覚えています。右隣の方には広場があって、そこで盆踊りをしてたと思います。その広場には重機やボルトのようなものがいつも置かれていました。映画館の前にあるバス停で人が乗り降りしている光景も覚えています。3輪の馬車もあちこちにあって、荷台の空いた所に子どもを乗せて学校まで乗せて行ってくれたりしてました。映画は当時10セントくらいだったかと。感覚的には現在の￥2,500くらいで”3本立て”だったと思います（※3本立て＝一度に映画3本が上映されて観ることができる）。あまり頻繁に観に行けなかったけれど、小禄琉映館で最後に観たのは20才すぎで、石原裕次郎主演の『黒部の太陽』だったと思います。建物正面には映画を宣伝する垂れ幕がありました。ふるさとで小さい頃に自分が見てきたまちの景色を色々描いていますが、これからも描いていきたいと思います。」

【鏡原町が誕生する前に開館？2階席もあった】

鏡原町誕生の少し前、1953年～1954年はじめ頃に開館したと思われる『小禄琉映館』（1957年頃から近くの漫湖の一部埋立が開始され1960年に鏡原町が誕生）。戦後復興、周辺地域の大きな変貌とともに娯楽の場として賑わっていたことでしょう。小禄地域にあった5つの映画館の中で最後に開館したこともあり、モダンな建物が印象的です。沖縄県公文書館に保管されている琉球政府主税局那覇税務署の娯楽税資料（常設館映画）に1969年の小禄琉映館の稼働状況が記載されており、それによると当時の定員は566人で、座席が416（1階席286、2階席130）、立見が150、その年の上映日数は354日、上映本数は376、入場者数は19,967人で入場料金の合計は10,190ドルとあります。あの場所で年間354日上映されていたということは、映画が日常の身近な娯楽だったと想像できます。

後方に映る小禄琉映館。殿（トゥヌ）、森口公園方面から撮影したと思われる／提供：高良正夫さん（協力：高良広輝さん）

左後方に映る小禄琉映館／提供：高良幸佑さん（協力：高良広輝さん）

小禄琉映館跡地。現在は駐車場になっている

参考
・『沖縄映画興行伝説』http://tokkan-kozo.com/bind3-eikoden/naha/pg04.html
・沖縄県公文書館保管『琉球政府主税局那覇税務署の娯楽税資料（常設館映画）』

小禄琉映館 跡地
那覇市鏡原町26

編集後記

おかずや
おつまみの
”もう一品”に

今回も素敵なお店の皆さんにご協力いただきました。お忙しい中、取材にご協力いただき本当にありがとうございました！今回のお店はいずれも注文してから揚げてくれるので揚げたてアツアツを楽しめます。「”揚げたて”ってやっぱり美味しい…」と再確認（笑）しかも1個から注文できるので、本当にありがたいですよね～♪ 晩御飯のおかず、晩酌のおつまみの”もう一品”に、そしてちょっと小腹が空いた時のおやつにも。そして、ちょっとした手土産や持ち寄り飲み会の一品にも喜ばれること間違いなし！ぜひぜひお試しくださいませ～！

うるくローカルプレスの「小禄（うるく）」は、【小禄、字小禄、大嶺、鏡水、安次嶺、當間、金城、赤嶺、高良、宮城、具志、宇栄原、田原あたり】としています。

URUKU LOCAL PRESS うるくローカルプレス

WEBサイト
誌面では伝えきれない情報が満載！
https://uruku.daikyo-k.net

各SNSからのメッセージもOK！
Facebook　twitter　instagram　youtube　Spotify

うるくの情報発信局
『うるくローカルプレス』

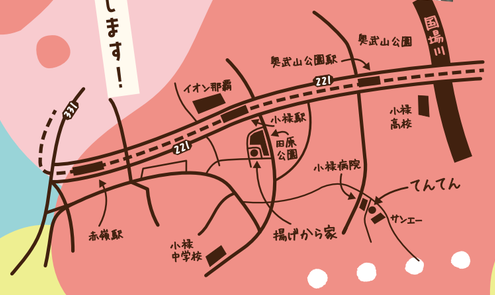
編集部：那覇市字字栄原925番地 若葉荘1-3号室
運営：大鏡建設株式会社（那覇市字小禄912-1）

お問合せ＆窓口
uruku@daikyo-k.net

人とまちの、未来をつくる。
大鏡建設 DAIKYO CONSTRUCTION

揚げたてアツアツ！TAKE OUT

揚げたてアツアツが美味しい！
揚げ物TAKE OUT専門店をご紹介します！



中華春巻き

1本¥220（税込）、5本セット ¥1,100（税込）
アグー豚・野菜など7品目入りの具沢山春巻き

熱々！パリパリの皮と7品目入り具沢山！

ロングスティック タコス春巻き
1本¥200（税込）長さ約25cm！
タコスミートの新感覚春巻き

ミニスティック チーズ春巻き
¥300（税込）お子さんに人気！
パリパリ食感とチーズが美味しい

地元の方へメッセージ

アチコーコーでご提供してます！サンエー小禄店さんの近くですので買い物がてら気軽に寄ってください！

オーナーの上原さん

うるくのココが好き！

子育て環境が良く子育てしやすい！
そして空港などへのアクセスが良くて便利だと思います！

飲茶てんてん／揚げたて春巻きの専門店

動画で様見！

手作りの揚げたて春巻き専門店。サンエーV21食品館小禄店さんと小禄病院のそばにあります。オーナーの上原さんのご実家が営む老舗製麺所で作る皮と元中華料理のコックとして腕を振るっていたお父様の秘伝のレシピで作る本格的な春巻きを注文後揚げたてで提供しています。カラッと揚がった『中華春巻き』は皮がパリパリ！アグー豚、しいたけ、たけのこ、もやし、春雨など7品目入りの具沢山で食べ応えがあります。油っぽさもなく、何もつけなくても充分な美味しさです。そのほか、タコスミートをくるっと巻いた長～い『タコス春巻き』やおやつ感覚で子どもたちに人気の『チーズ春巻き』、今後登場予定のスイーツ系春巻きなど、新感覚の春巻きを楽しめます。揚げ上がりまで15分ほどかかりますので、先に注文してサンエーでお買物をするお客さんも多いそうです。晩御飯のもう一品や手土産にもおすすめ。県内唯一の春巻きの皮製造で県内の中華料理店で使用されているという皮で作る春巻き、ぜひ食べてみてください。

飲茶てんてん
☎ なし
那覇市小禄646
14:30-18:00（売切れ次第終了）
不定休
なし

単品唐揚げ

1個¥120 税込 / 5個¥580
写真左から 醤油唐揚げ、のりしお唐揚げ、塩唐揚げ
薄めの衣でパリッとジューシー！

毎日食べたい！おかずになる唐揚げ

タコライス ¥750（税込）
新鮮レタスがもりもり！

たい焼き ¥150（税込）
あんこ、カスタード
ふわっとした生地にあんこたっぷり！

事前の電話注文がおすすめ

注文後に揚げるため15分ほどかかります。
お急ぎの方は先に電話注文しておくとスムーズに受け取りできますよ♪

うるくのココが好き！

やさしい人が多いと思います！子どもを連れている時に通りがかりの方に何度も助けていただきました！あとは利便性が高くて生活しやすいところが好きです♪

スタッフの平良さん

地元の方へメッセージ

田原公園に遊びに来ながら、お気軽にお店にお立ち寄りください♪

沖縄発祥 揚げから家／揚げたて唐揚げとお弁当のお店

動画で様見！

JAおきなわ小禄支店近く、田原公園の向かいにある揚げたて唐揚げやお弁当のテイクアウト専門店。「食卓のおかずになる唐揚げを」と色々なお店を食べ歩いて研究したという唐揚げはパリッとジューシー！大きめのからげは1個でも満足感があります。塩・醤油・のりしおの3種類で、それぞれ仕込みを変えて作っており独自配合の衣は薄くて軽やか。「一番美味しい状態で食べてほしい」と注文後に揚げたてを提供しています。
スタッフさんおすすめの「のりしお」は青のりの風味とお肉のジューシーさが広がってご飯が欲しくなる味。唐揚げは1個から購入でき、晩御飯のもう一品、そしてお酒のおつまみにもおすすめです。唐揚げ弁当やタコライス、ご飯と一緒に食べるサムギョプサルボウル、韓国風冷麺などその他メニューも充実しています。また、公園そばにお店があることから、子どもも気軽に買えるように…とたいやきとかき氷があり、塾帰りや公園で遊ぶ子どもたちのおやつとしても人気だそうです。
沖縄から発信していくという想いを込めて”沖縄発祥”と名付けた唐揚げ、ぜひお試しください！

沖縄発祥 揚げから家
☎ 098-996-4075
那覇市田原3-5-2 1F
11:30-19:30（L.O）
不定休
あり（店舗前に2台）
agekaraya-naha.storeinfo.jp
agekaraya

芸術の秋 アートなスポットご紹介

日常の中で気軽にアートと触れ合えるギャラリー&ショップ

HONNO PARK（ホンノパーク）

那覇市小禄3-5-7 オロクハウス2F
098-952-5576
honnopark.com　honnopark

小禄月光公園の目の前、レトロな雰囲気の建物2Fにある『HONNO PARK（ホンノパーク）』は「アートやライフスタイルに関わる幅広いジャンルのアーティストと訪れる人を繋げていく」ギャラリー＆ショップ。アーティストでもある新城さんが「もっとアーティストが表現（発表）できる場所を、アートに気軽に触れる場所を」と2024年にオープンしました。

ほんの（HONNO）些細なことが何かのきっかけに

ちょっとした似顔絵を見て”かわいい”と感じて気分が上がったり癒されたり…。日常の「ほんの（HONNNO）些細なこと」が変化のきっかけになることがあります。「何気なく飾られた一枚の絵が潜在意識の内にある本能を刺激することってありますよね。カジュアルな視点でアートに触れてアートと人がつながる、そんなきっかけ作りになる場所になってくれたら」と新城さん。

童心に帰れる公園（PARK）のような場所に

ギャラリーと聞くとちょっと敷居が高く感じますが、西表島出身の新城さんが小さい頃に遊んだ公園・原風景を再現したという空間は、ジャングルジムのようなディスプレイ台やブロックのようなチェアなど遊び心がいっぱい。「公園のように自由な空気の中でアートに親しんでほしい。子どもの頃に戻った気分で、公園に行くみたいな感覚で気軽に立ち寄ってほしいです。」（新城さん）。月光公園で遊んだ帰りに子どもと一緒にふらっと立ち寄って、気さくで楽しい新城さんご夫妻とユンタクしながらアートに触れる…そんな気軽な感覚でぜひ立ち寄ってみてください。

「沖縄の歴史」もアートの一部に

アートな空間を演出する煉瓦色の天井の鉄骨は、創業50年を迎える老舗ホテル・沖縄ハーバービューホテルで使用されたものと同じだそう。沖縄の歴史を間近で感じることができます。

沖縄の若手工芸作家による新プロジェクト
『Re:OKINAWA』企画展 開催！

2025.11.15（土）～11.24（月祝）
参加ブランド：Grau ＋ acier、MOKU OKINAWA、国吉真由美 他全9組

開催する企画展についてはインスタをCheck!
毎回インスタで企画展についてご案内しています！
ぜひcheckをお願いします！

地域の皆さんへ

「地元の皆さんにとって身近なギャラリーに、そしてアートを楽しんでもらえる取り組みをしていきたいと思っていますので、どうぞ気軽に遊びに来てください！」

オーナーの新城さんご夫妻
（装飾はシンガーソングライターの宮古織家菓子さん）